KANSAI＊OSAKA

文化力

No.142
2024/AUTUMN・秋

公益財団法人
関西・大阪21世紀協会

特集
能楽師シテ方観世流
大槻裕一さんの挑戦と愉悦

次代を担う若き演奏家を支援する
ライジングスター・プロジェクト始動！

トップインタビュー　企業と文化
久保行央氏
（トヨタモビリティ新大阪株式会社　代表取締役社長）

関西から文化力
POWER OF CULTURE

表紙：大槻裕一さん（能楽師シテ方観世流）

特集

能楽師シテ方観世流 大槻裕一さんの挑戦と愉悦

憧れを原動力に―

昨年度、「咲くやこの花賞」「大阪文化祭奨励賞」を受賞し、能楽界の若手ホープとして期待される大槻裕一さん。古典はもとより、一昨年から取り組む「能狂言『鬼滅の刃』」も好評で、異分野との共演や独自の能楽講座を企画するなど、新たなファンの獲得に余念がない。そうした挑戦的な活動や能役者としての思いを伺った。

大槻裕一（おおつきゆういち）さんプロフィール

能楽師シテ方観世流。1997年大阪市出身。2000年『老松』で初舞台、2005年『俊成忠度（しゅんぜいただのり）』にて初シテ。2010年まで数多くの曲で子方（こかた）を勤め、2013年に観世流シテ方の人間国宝・大槻文藏の芸養子となり、大槻裕一を襲名する。2015年に自主企画公演「大槻文藏裕一の会」を主催。七月大歌舞伎『源氏物語』、狂言風オペラ『フィガロの結婚』、大阪クラシックなど、他ジャンルとの共演やテレビ、ラジオにも多数出演。2023年度「咲くやこの花賞」「大阪文化祭奨励賞」受賞。公益財団法人大槻能楽堂 常務理事。

『鬼滅の刃』ファンと能楽堂

近ごろ、能楽堂で一風変わったエピソードがあった。昨年と一昨年、人気漫画『鬼滅の刃』を原作とする能舞台が上演され、登場人物のコスプレ姿で能楽堂にやってくる人がいたのだ。題して「能狂言『鬼滅の刃』」。獰悪な鬼に家族を皆殺しにされた炭売りの少年が、唯一生き残ったものの鬼と化した妹を人間に戻すため、兄妹で鬼を討つべく苦難の旅に出る物語で、大槻裕一さんが主人公（シテ）の竈門炭治郎と妹・禰豆子を、観世流シテ方の人間国宝・大槻文藏さんが仇敵の鬼・累役を勤めた。

裕一さんは、普段から映画や演劇を観ていて、〝能でやったら面白そう〟と思うことが多い。そうしたチャレンジ精神で、これまで歌舞伎やオペラなどにも数々出演し、ジャンルの違いにこだわりはない。『鬼滅の刃』もその一つで、能役者である自分の性分だと笑う。

「登場する鬼たちはもともと普通の人間で、鬼に襲われて無理矢理鬼にさせられた、いわば弱者です。能にも、子どもを失った母親や、夫に捨てられた妻など、弱者を主人公にした狂女物と呼ばれるジャンルがあります。『鬼滅の刃』は、そうした能の世界観に通じています。思い立ったのはコロナ禍の前で、すぐに文藏先生や野村萬斎さん（能楽狂言方和泉流）に相談し、コロナ禍明けに実現しました」

©吾峠呼世晴／集英社 ©吾峠呼世晴／集英社・OFFICE OHTSUKI
撮影：瀬野匡史（工房円）
「能狂言『鬼滅の刃』」で竈門炭治郎を演じる大槻裕一さん

©吾峠呼世晴／集英社 ©吾峠呼世晴／集英社・OFFICE OHTSUKI
撮影：瀬野匡史（工房円）
「能狂言『鬼滅の刃』」で禰豆子を演じる大槻裕一さん
（能では、人間ではない存在や特定の役を演じる際に面をつける）

演出は野村萬斎さんで、自身も鬼役など数役で出演。東京、大阪、京都、福岡、名古屋、横浜での公演は大盛況となった。

能の魅力を伝える

コスプレ姿でつめかけた『鬼滅の刃』ファンたちは、能楽堂の雰囲気や伝統と格式に則った謡や囃子に圧倒されたのか、その静寂と神秘的なようすに引きこまれた。それこそが裕一さんの狙いだった。

「能狂言をあまりご存知ない方に合わせて表現を現代風に変えてしまうと、わざわざ能楽堂で見る緊張感が失われます。いつもどおりに上演し、能狂言の伝統的な雰囲気を味わっていただきたいと思いました」

初心者の方には、700年の歴史と伝統を感じてもらうため、あくまで〝本物〟に触れてもらうことを重視した。一方、見巧者には『鬼滅の刃』がどう演じられるのか、新鮮な気持ちでお楽しみいただきたかったという。その狙い通り、来場者アンケートではどちらのファンからも「また観たい」という声が大多数を占めた。

この公演の成功で、裕一さんは令和５年度咲くやこの花賞（大阪市）を受賞した。今年８月には、期待に応えてSkyシアターMBS（大阪市北区）で再演。「能を観たことのない若い人たちに能の魅力をアピールした」との贈呈理由のとおり、裕一さんは、今回の再演につながったことで能・狂言の新たなファン層の獲得に手応えを感じた。

二人の父

裕一さんは、シテ方観世流 赤松禎友さんの長男で今年27歳。２歳８か月で初舞台を踏み、幼稚園から小学生時代にかけて三島元太郎さん（金春流太鼓方の人間国宝）や藤田六郎兵衛さん（藤田流笛方十一世宗家：2018年没）らに囃子の指導を受けた。平日は学校から帰ると大槻能楽堂で稽古をつけてもらい、土日に出演。東京や福岡の舞台に出るのも日常だった。

「赤松の父は能への思いがとても熱い人ですが、私に対する稽古は厳しくなく、叱られた記憶もありません。私は、舞台での歩き方や立ち方などの基本をみっちり指導してもらいました」

それでも将来は能楽師になることを求められたり、稽古を強制されたりしたことはなかったが、「能のお稽古ばかりしていたので、結果としてハマっていった」という。遊びといえば、画用紙で作った面と手ぬぐいを縫い合わせて作ってもらった装束を着て、祖母が観客の〝能ごっこ〟。ゲームやテレビアニメには関心がなく、学校で友だちがポケモンの話を始めると、すかさず姿を消していたと笑う。

転機は15歳のとき。裕一さんが大槻文藏さんの芸養子になったのである。芸養子とは、芸事の上で父子の関係になること。当初は〝大槻文藏の後継者〟と目される責任の重さが分からず「なんとかなるだろう」と構えていたが、その気持ちはすぐに吹き飛んだ。

鍛えられた精神力

「芸養子になって、文藏先生のツレ（相手役）を務めることが増えました。年齢の割に大役がつくのはありがたいのですが、まわりは人間国宝をはじめ重鎮の先生方ばかり。そうした方々の邪魔をしては絶対になりませんし、未熟な素振りすら見せてはいけません」

能は、歌舞伎や演劇と違って出演者と一緒に稽古をせず、普通は本番前のリハーサルもしない。裕一さんは、ぶっつけ本番で〝できて当たり前〟の世界で自分のレベルを上げるには、「先生方がやってきた以上の努力をするしかない」と心に決め、日々稽古に励んだ。また、シテは囃子方の演奏に合わせてセリフを謡で表現したり、動いたりするため、囃子や謡の先生に稽古をつけてもらうことも増えた。高校時代の裕一さんは、そこでの厳しい指導に心が折れそうになったこともあると打ち明ける。

「東京の亀井忠雄先生（能楽囃子葛野流大鼓方の人間国宝：2023年没）の謡の稽古では、一箇所でも間違えると最初からやり直し。30分ほどの演目を、朝10時から昼２時半まで、正座したままぶっ続けでやることもありました」

そうした厳しい稽古や重鎮たちとの共演を通して、精神力も鍛えられたという。芸養子になって11年目の2023年、能楽師にとって関門の曲といわれる『道成寺』を初演。その演技が高く評価され、令和５年度大阪文化祭奨励賞を受賞した。

「子どもの頃は〝あの衣装がカッコいい、あの楽器を弾いてみたい〟と憧れ、やがて〝あの演目をやりたい〟〝あの先生のように上手くなりたい〟と憧れる。そうした憧れを持ち続けることが大事だと思います」

『道成寺』も「能狂言『鬼滅の刃』」も、原点はそうした「憧れ」だった。

鑑賞者の裾野を広げる

能は、そのセリフや動きゆえに難解だといわれ、初心者にとっては近寄りがたい世界。そのため裕一さんは、演者が育つことと同じくらい、多くの人に能を楽しんでもらうことが大事だと考えている。大阪文化祭奨励賞の贈呈理由の一つにもなった普及活動『月イチ能楽講座』は、裕一さんが2022年に小鼓方の成田奏さん（令和４年度大阪文化祭奨励賞）と共に東京で始めたもの。能の作品や見所などについて、実演を交えて解説する月に一度の事前講座で、分かりやすい言葉で解説してもらえると好評だ。当初は数人の受講者だったが、今では数十人に増え、大阪や京都でも行っている。

今年６月、咲くやこの花賞と大阪文化祭奨励賞の受賞記念として開催された「大槻文藏裕一の会」（大槻能楽堂）で、裕一さんがシテを勤める『養老 水波之伝』を観た。裕一さんが「ロックだ」という通り、クライマックスの「神舞」のシーンでは、シテの山神と囃子方の凄まじい気迫とテンポの速さに圧倒された。「お客さま以上に能楽師が楽しんでいます」という裕一さん。大盛況の能楽堂は、次代の棟梁（一座を代表する役者）と、その指導にあたる大槻文藏さんはじめ重鎮たちへの期待の表れにほかならない。

（ライター 三上祥弘）

①『養老 水波之伝』で「神舞」を舞う山神（後シテ）の大槻裕一さん（2024年６月１日／大槻文藏裕一の会〈大槻能楽堂〉）②大盛況の大槻能楽堂 2024年６月１日「大槻文藏裕一の会」③『葵上』での六条御息所（ろくじょうみやすどころ）ノ生霊役（シテ）の大槻文藏さん（左）と照日ノ巫女（ツレ）の大槻裕一さん（右）（2024年６月１日／大槻文藏裕一の会〈大槻能楽堂〉）④『月イチ能楽講座』（東京）での大槻裕一さん（右）と成田奏さん（左）

2023（令和５）年度

大阪文化祭賞を贈呈しました

●大阪文化祭賞

◆主催：大阪府、大阪市、公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

（2024年3月22日／NCB会館）

前列左から、大槻裕一さん（能楽師 シテ方）、山村若葵紀さん（舞踊家）、京山幸太さん（浪曲師）、桐竹勘十郎さん（人形浄瑠璃文楽座 人形遣い）、金滿里さん（態変主宰）、延原武春さん（日本テレマン協会 音楽監督）、村角太洋さん（THE ROB CARLTON主宰）、中野光子さん（World Dream Project 実行委員長）、後列は各部門の審査委員長ほか。

60周年の節目「壇浦兜軍記（だんのうらかぶとぐんき） 阿古屋琴責（あこやことぜめ）の段」出演者ら９公演に贈呈

関西・大阪21世紀協会では、大阪府・大阪市とともに、芸術文化活動の奨励と普及、大阪の文化振興の機運醸成を目的に、大阪府内で１年間に上演された公演の中から、独創性、企画、内容、技法などが総合的に優れた公演に対して、部門ごとに「大阪文化祭賞」と「大阪文化祭奨励賞」を贈呈しています。

この賞は1963（昭和38）年に創設され、今回は60回目の記念すべき節目を迎える贈呈式となりました。第１部門の大阪文化祭賞の受賞者代表として登壇した桐竹勘十郎さんは、「人形浄瑠璃文楽はよく総合芸術と呼ばれますが、多くの力を合わせて一つの舞台を作り上げていくものです。今回、賞を頂戴できたことを出演者ならびに関係者一同、誠にうれしく思っております」と挨拶。各受賞者からも喜びの声が聞かれました。

左から、桐竹勘十郎さん、金滿里さん、延原武春さん

日本テレマン協会による受賞者記念公演

贈呈式の後半では、日本テレマン協会による受賞者記念公演としてG.Ph.テレマンの『シンフォニア』などの曲が披露され、会場から大きな拍手が送られました。

関西・大阪21世紀協会は、芸術・文化分野における人材育成やアーティスト支援の一環として、大阪文化祭賞の事業運営を事務局として行うとともに、受賞者の一層の励みとなるよう副賞賞金として大阪文化祭賞に20万円、同奨励賞に５万円をそれぞれ贈呈しています。

2023（令和５）年度・各部門の受賞者

敬称略／部門順、五十音順

第１部門 伝統芸能・邦舞・邦楽

大阪文化祭賞▶ **「壇浦兜軍記 阿古屋琴責の段」出演者一同**
「初春文楽公演『壇浦兜軍記 阿古屋琴責の段』」の成果

大阪文化祭奨励賞▶ **大槻（おおつき） 裕一（ゆういち）**「大槻文藏裕一の会『道成寺』」の成果
山村（やまむら） 若葵紀（わかあおき）「新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会『鐘ヶ岬』」の成果

第２部門 現代演劇・大衆芸能

大阪文化祭賞▶ **態変（たいへん）**「私たちはアフリカからやってきた」の舞台の成果

大阪文化祭奨励賞▶ **京山（きょうやま） 幸太（こうた）**「十三浪曲寄席『パンク侍、斬られて候 三本勝負』」の口演の成果
THE ROB CARLTON「Meilleure Soirée（メイユール・ソワレ）」の舞台の成果

第３部門 洋舞・洋楽

大阪文化祭賞▶ **日本テレマン協会**「第300回定期演奏会」の成果

大阪文化祭奨励賞▶ **会所（かいしょ） 幹也（みきや）**「会所幹也リュートリサイタル」の成果
World Dream Project 実行委員会「第９回 World Dream」の成果

撮影：樋川智昭

次代を担う若き演奏家を支援する

ライジングスター・プロジェクト始動！

関西・大阪21世紀協会×関西フィルハーモニー管弦楽団 共催事業

Supported by トヨタモビリティ新大阪

関西・大阪21世紀協会は、関西フィルハーモニー管弦楽団（以下、関西フィル）との共催により、次代を担う若手演奏家を発掘・育成する「ライジングスター・プロジェクト」を開始しました。

このプロジェクトは、トヨタモビリティ新大阪株式会社（大阪市淀川区東三国・久保行央社長）から、関西の若手クラシック演奏家の支援を目的として当協会に託された寄付を活用して実施しているプロジェクトの第３弾。その名のとおり、将来有望な関西ゆかりの若い演奏家を公募し、厳正なオーディションを通じて、関西を代表するオーケストラである関西フィルのフルオーケストラと協演する機会を提供するという一大企画です。

才能あふれる関西の若手演奏家に成長のチャンスを

舞台となるのは、関西フィルと首席指揮者の藤岡幸夫氏がクラシック音楽の裾野を広げるため長年取り組んでいる「Meet the Classic」シリーズの第49回公演（2025年８月11日開催／会場：住友生命いずみホール）。

本年４月から２カ月にわたって公募を行い、書類と動画による1次審査、実演審査による最終審査を経て、十河七海（そごうななみ）さん（京都市・27歳／コントラバス）、林成（りんせい）さん（京都府宇治市・14歳／チェロ）、大屋響（おおやひびき）さん（大阪府枚方市・16歳／ヴァイオリン）（演奏順）が、将来有望なスター候補として関西フィルとの夢の舞台に立つ栄冠を勝ち取りました。

そこで、公募開始に先立ち開催した記者会見を中心に、当プロジェクトの概要をご紹介します。

「ライジングスター・プロジェクト」記者会見のようす
（2024年３月11日／門真市民文化会館）

若き演奏家の飛躍と関西・大阪の文化振興を期待

当協会はトヨタモビリティ新大阪からの寄付をもとに、才能豊かな若い演奏家たちに対する活躍の場の創出と、クラシック音楽の裾野を広げて地域社会に貢献することを目的に、３つのプロジェクトを展開しています。

１つ目は、アーツサポート関西「トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金」。当協会の助成事業・アーツサポート関西の助成制度を活用して、若手演奏家たちの芸術性の高い演奏活動や地域との交流を図るアウトリーチ活動を支援するものです。

２つ目は、トヨタモビリティ新大阪室内楽支援。プロとして歩み始めた演奏家のレベルアップを図るため、室内楽の技量や理解の向上を高水準で目指し、第一線で活躍する演奏家が指導するマスタークラス等を提供する事業者に対する支援です。

﨑元利樹
関西・大阪21世紀協会
理事長

久保行央氏
トヨタモビリティ新大阪株式会社
代表取締役社長

大野英人氏
関西フィルハーモニー管弦楽団
常務理事・楽団長

藤岡幸夫氏
関西フィルハーモニー管弦楽団
首席指揮者

ライジングスター・プロジェクトの公募開始に先立つ今年３月11日、最終（実演）審査会場となる門真市民文化会館にて記者発表が行われ、プロジェクト主催者から、次代を担う若手演奏家の支援に向けた思いが語られました。

そして３つ目が、今回のライジングスター・プロジェクトです。

記者会見で当協会の﨑元利樹理事長は「関西・大阪は非常に古い歴史があり、優れた文化を有する地域。関西フィルをはじめとする幾つものオーケストラがあり、関西から多くの演奏家が世界の舞台で活躍している」と関西文化の厚みをアピール。一方でクラシックファンの高齢化などの課題にも触れ、業界の活性化が必要と訴えました。そのうえで、先行する２つのプロジェクトがいずれも若い演奏家たちの情熱が伝わる充実した内容になっていることから、「当プロジェクトもその流れを受け、若い演奏家の皆さんはぜひ自らの成長に役立てるとともに、関西・大阪の文化の振興にも貢献してほしい」と期待を語りました。

経済の発展と文化の発展は車の両輪

トヨタモビリティ新大阪の久保行央社長がこうした支援をするきっかけになったのは、身近にいる若い演奏家たちから切実な悩みを聞いたこと。「コンサートを開き世の中によい演奏を届けたいが、演奏活動だけでは資金的に苦しくアルバイトをせざるを得ない」。

同社の源流は大阪府和泉市で紡績業を営む久保惣（くぼそう）株式会社で、先々代を中心に和泉市久保惣記念美術館に所蔵されている東洋古美術を収集していた関係で、久保社長は幼いころから文化芸術に興味があり、会社として長年、地域貢献にも力を入れてきた経緯があります。「彼らを直接資金援助するのは簡単だが、それだけでは文化支援・地域貢献にはならない。もっと広域的に何かできないか」と考えていた矢先、当協会からこのプロジェクトの声がけがあったとのこと。「経済と文化は社会の両輪であり、関西で若い演奏家を発掘・育成することは文化レベル向上につながり都市の魅力や社会貢献につながる」。今回の寄付にはそうした想いが込められています。

「当社は月に１度、若手のコンサートを開催している。ライジングスター・プロジェクトのみならず、独自の公演なども通じて今後も若い演奏家を側面的に応援していきたい」という久保社長の言葉には、文化芸術に対する熱い思いがあふれていました。

※Ｐ８～10「企業と文化」にインタビュー記事

応募資格に年齢の「下限」なし

関西フィル楽団長の大野英人氏は、このプロジェクトの応募資格について、楽器は30歳以下、声楽は35歳以下という上限はあるが、普通は20歳以上とされるような下限は設けていないことを強調。その上、関西元気文化圏の２府８県に在住・在学・在勤の経験があれば現在の活動拠点は問わないという門戸を広げた募集なので、「ぜひ多くの才能ある演奏家に応募してほしい」と呼びかけました。

真のライジングスターに舞台を提供

「若くて才能のある演奏家には、いきなり大きな舞台を与えるのが私のやり方。そういう意味でこのプロジェクトは私のポリシーに合っている。どんな人が応募してくれるか大変楽しみだ」と語るのは関西フィル首席指揮者の藤岡幸夫氏。「Meet the Classic」は藤岡氏が25年前、関西フィルに来た当初から続けてきたシリーズで、これまで超一流のソリストを数多く輩出しています。お客様がチケットを買って聴きに来られる大切な舞台だけに、「本当に才能があると認められる人がいなければ該当なしの場合も十分あるし、逆に複数のソリストを選ぶ可能性もある。だから、自分は絶対スターになるという気概のある人はぜひ気軽に応募してほしい。ただし、選考は気軽にはしません」と厳しくも力強いコメントを寄せました。

また、「関西の文化的な豊かさと才能あるアーティストが活躍する舞台のために、一企業がこれだけの支援をするのは他では見たことがないといえるでしょう」と久保社長に謝意を表しました。

Meet the Classic Vol.47で演奏する杉谷歩の佳さん（撮影：樋川智昭）

栄冠は誰の手に？

未来のスターを選ぶオーディション開催

若き３つの才能がMeet the ClassicVol.49で関西フィルと夢の協演

「ライジングスター・プロジェクト」ソリスト選考オーディションが８月26日、関西フィルハーモニー管弦楽団の本拠地である門真市民文化会館ルミエールホールで行われました。同プロジェクトの初年度となる今回は、10歳から33歳までの80名の応募者の中から、書類選考・演奏動画審査を突破した11名のファイナリストが実演審査に挑みました。ピンと張りつめた空気の中、ピアノ、声楽、マリンバ、ファゴット、フルートなど様々な楽器の奏者たちがあらかじめ選んだ曲の中から審査員が指定した部分を、渾身の力を込めて演奏しました。

選考の結果、今すぐ輝けるスターのレベルに到達した方の選出には至りませんでしたが、審査にあたった藤岡幸夫氏から「将来スターとして大きく成長する可能性が非常に高い」と評されたコントラバスの十河七海さん、チェロの林成さん、ヴァイオリンの大屋響さん（演奏順）が優秀賞に選ばれました。３名は来年８月11日（月・祝）に開催する「Meet the Classic Vol.49」で、藤岡氏が指揮する関西フィルとの協演が決定しました。

（左から）藤岡幸夫氏、大屋響さん、林成さん、十河七海さん

十河七海（そごうななみ）さん 27歳　（コントラバス）

今回、コントラバスという、ソロ楽器として知られていない楽器を選んでいただけたことを、うれしく思います。コントラバスは扱いにくさからソロに適さないと思われがちですが、他の弦楽器に負けない力があります。演奏を通して、その魅力を伝えたいと思います。

林成（りんせい）さん 14歳　（チェロ）

以前、関西フィルと協演した時よりも成長した姿を皆さんにお届けできるよう頑張ります。僕が尊敬するチェリスト、ダニエル・シャフランの演奏は非常に個性的で、堂々と弾き続ける姿勢が素晴らしく、彼のように個性を大切にしながら、これからも成長していきたいです。

大屋響（おおやひびき）さん 16歳　（ヴァイオリン）

オーケストラと協演できる機会はなかなかないので本当にうれしく、感謝しています。まだ演奏曲は決まっていませんが、自分の中から湧き上がる音楽を藤岡先生とオーケストラの方々にぶつけ、また私も音楽を受け取り、濃厚な時間を皆さんと共有できるような演奏を目指します。

誰にも負けない２つ以上の輝く強みを

藤岡氏は「どなたの演奏も本当に素晴らしかったが、優秀賞の３人は絶対普遍的にアピールする光るものを２つ以上持っていた。何かに成功するためには、他の誰にも負けない２つの強みを持つことが重要。それにより将来が大きく変わるだろう。皆さんも自分の魅力を見つけ、それを磨いていってほしい。今日選ばれなかった方々も来年またチャレンジしてください。これから協演する機会がきっとあると信じている」とすべての参加者の努力をたたえ、未来への期待を込めエールを贈りました。

実演審査にあたる藤岡幸夫氏（左から3人目）

Meet the Classic Vol. 49 公演情報

日　時：2025年８月11日（月・祝）15時開演
会　場：住友生命いずみホール（大阪市中央区城見1丁目4-70）
公演名：関西フィルハーモニー管弦楽団「Meet the Classic Vol.49」
指　揮：藤岡幸夫（関西フィル首席指揮者）

プログラム
・前半：優秀賞の３人がそれぞれ15分以内の曲で協演
・後半：関西フィルハーモニー管弦楽団による演奏
※チケットは2025年４月発売予定

トップインタビュー
企業と文化

久保 行央 氏

くぼ ゆきお

トヨタモビリティ新大阪株式会社
代表取締役社長

「全体最適」の視点で地域密着 持続可能なモビリティで幸せな未来を

カーディーラーとして、地域とともに持続的な発展を目指すトヨタモビリティ新大阪。環境保護や子どもの安全見守り、音楽家支援なども積極的に推進する同社の久保行央社長に、当協会の﨑元利樹理事長がその経営観や社会貢献活動への思いについて伺った。

立花大亀老師の教え

﨑元　御社は北摂地域を中心に多くの事業所を展開されていますが、事業を展開する上で大切にされているお考えはどういうことでしょうか。

久保　1982年、私は大学入学を機に京都の大徳寺（如意庵）に下宿しました。厳格な父から「大徳寺の立花大亀※老師に頼んでおいたから、そこから大学に通え」とのお達しが出たのです。そして、ここでの経験が、私の経営に対する考え方に大きく生かされています。

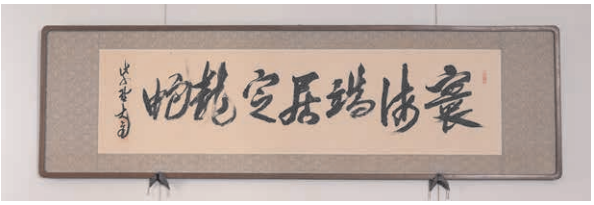
大徳寺は禅宗の一派である臨済宗大徳寺派の総本山です。私は毎朝５時半に起きてお経をあげ、朝餉をいただいた後、老師のお点前をいただき、さらに作務をしてから通学していました。門限は夕方６時。しかし、テニスサークルとグリークラブ（男声合唱団）をかけもちしていた私は、門限を守れません。その度に寺の塀をよじ登って入っていたら、ついに老師に見つかり大目玉を食らいました。そこで「老師の秘書と運転手をするので、門限は大目に見てほしい」と懇願すると、あっさりと許してもらえました。以来、私は老師のそばでさまざまなお話を聞く機会に恵まれました。

あるとき、老師から「経済とは何か」と聞かれたことがありました。私の専攻は経済学でしたので、「経世済民（世を経〈治〉め、民を済〈救〉うこと）です」と答えると、今度は「経世とは何ぞや」と。返答に詰まっていると、老師は「経は経緯の経で縦糸のこと。緯は横糸。縦糸と横糸を正しく織ることで布ができるように、世の中の経緯を正すことが経世である。元紡績屋の倅ならそのくらい勉強しておけ」といわれました。私は老師から「金儲けが経済ではない」と諭されたのです。

老師の言葉は禅の思想に基づいています。理性や論理を最大限重視する欧米の思考と異なり、森羅万象をあるがままに受け入れるというものです。自然界において人間の行動は小さなものですが、その小さな行動が全体最適を考えたものであれば、素晴らしい世の中になります。私はこの考え方を受け入れて以降、自己の論理で物事を決めつけずに、全体最適を考えながら目的を達成するためにあらゆる意見や可能性を見出そうと心がけています。

※立花大亀（1899～2005年／臨済宗の禅僧、茶人、書家）

崎元　社長室に立花大亀老師の墨書を掲げておられますね。
久保　「寰海端居定龍蛇（かんかいにたんごして りゅうだをさだむ）」という禅の境地が書かれています。陸と海、つまり世界を俯瞰してどっしりと腰をおろし、龍か蛇かを見極めよという意味です。私はこれを「全体最適の視点で物事の本質を見極めよ」と受け止めています。



立花大亀老師の墨書「寰海端居定龍蛇」

お客様に選ばれるために

久保　大学卒業後は住友銀行（当時）に就職し、最初梅田支店に配属され、その後トレーニーとしてニューヨーク支店に配属されました。その両支店において私は、商いの真髄ともいうべき仕事に対する姿勢を学びました。

梅田支店では、松岡支店長（のちに常務取締役）、ニューヨーク支店では堀田健介支店長（のちに副頭取）、奥正之副支店長（のちに頭取）で、私はこのお三方から「給料はお客様からいただくものだ」という話をよく聞かされました。サラリーマンは、ともすれば上司に気に入られようとしたり、いかに会社の業績に貢献しているかをアピールしたりして、〝上を見て〟仕事をしがちです。お三方は、「そんなことではなくお客様のほうを見て仕事をしろ」とおっしゃるのです。

これは自動車販売でも同じです。どのメーカーの自動車を選ぶかはお客様の自由ですから、我々はお客様に選ばれるようにならなくてはなりません。そのためにはお客様の潜在的なニーズを顕在化して提案することが重要です。例えばお客様の自動車のトランクの中を見ると、ゴルフバッグだとかキャンプ用品だとか、趣味の道具が入っていることがあります。ご自宅を訪問すればお子さまの遊び道具も目にするでしょう。そうした趣味嗜好を把握しておくことは、お客様の思いを汲んだ提案につながります。在庫調整などといった自社の都合を優先してはいけません。

また、お客様が来店されると、いつもどこに座って、どんな飲み物を所望されるかなどといった情報を社員どうしで共有しておくことも大事です。ご来店されたら、〝いつものお席〟にご案内し、「ブラックコーヒーでよろしかったですね」とお伺いすれば、この店は自分を大事にしてくれていると思って嬉しくなるでしょう。こうしたことも、自分よりも他人を思いやる禅の「利他の心」の実践といえます。

社会貢献活動への取り組み

崎元　企業の社会貢献という観点では、どのようにお考えでしょうか。
久保　人間は自然を犠牲にして文明を手にしてきました。自動車もそうです。排気ガスを出し、街を汚し、交通事故の原因にもなり得る。我々は自動車を販売してお客様に利便性と幸せを提供しています。その一方、自然環境への配慮や安全なクルマ社会づくりへの努力も必須だと考えています。そこで当社は、企業理念として「トヨタ自動車と共に、安心・安全で快適なクルマ社会づくりと、事業発展に努めます」「パーソナルサービスと地域貢献で、お客様に支持され選ばれる会社になります」「次世代のため、環境保護・環境保全に社員全員で取り組みます」を掲げ、社会貢献活動にも積極的に取り組んでいます。
崎元　具体的にはどのような活動をされていますか。
久保　例えば、年に２～３回ボランティアを募集し、竹害から里山の植生を守るために、竹の伐採を行っています。街の清掃を毎月行ったり、小学校に申し出て、黄色い旗を持った社員が交差点に立ち、児童たちの下校時の安全見守り活動を行ったりしています。また、ご家庭から出る天ぷら油などの廃油を回収し、洗車用の石鹸に加工してお返ししています。さらに、当社はプロサッカーチームのガンバ大阪のスポンサーをしておりますので、スポンサーズデーには地域の子どもさんに呼びかけて、選手がピッチに入るときのエスコートキッズに参加していただいています。

こうした地域密着型企業としての存在価値を高め、地域の方々から愛されることで社員が誇りと働きがいを感じ、収益を上げていくことで当社の持続的成長にもつながると思っています。もとより社員あっての会社ですから、私はそうしたエンゲージメント（仕事や会社への愛着心）を大事にすべきだと考えています。

若い演奏家を支援

崎元　昨年秋、御社のご寄付を原資に、アーツサポート関西で若いクラシック音楽家を支援する「トヨタモビリティ

①レクサス箕面『コミュニケーションラウンジコンサート』②子ども安全見守り活動 ③ガンバ大阪・エスコートキッズ（©GAMBA OSAKA）④里山保全活動

新大阪ASK支援寄金助成」がスタートしました。地域のコミュニティやクラシック音楽に触れる機会の少ない方々に音楽を届けることと併せ、演奏家の活動の場を広げる機会になると期待されています。こうした文化支援についてはどのようにお考えでしょうか。

久保　社員や地域社会やお客様から存在意義が認められなければ、その企業に存在価値はありません。そのため、音楽を通じて地域社会が必要としていることを、できる範囲でサポートしたいと考えています。

﨑元　御社では、ショールームでコンサートを開催されていると伺いました。

久保　当社のレクサス箕面で、2022年7月から毎月1回開催している『コミュニケーションラウンジコンサート』です。これも地域貢献と文化支援を兼ねた活動で、ピアノ、管弦楽器、声楽など、若手のクラシック演奏家に出演してもらい、近隣の北摂地域にお住まいのお客様を中心にお招きしています。これがとても好評で、来場者は毎回50組ほどの応募の中から抽選で30組の方をご招待させていただいています。

﨑元　お客様の反応はどうですか。

久保　間近で演奏が聴けることや、出演者による曲目解説などのトークもあり喜ばれています。お客様は「レクサスで車を買って、こんな体験ができるとは」と感動され、「次回もぜひ聴きたい」というお声を多くいただいています。

﨑元　ところで、御社の源流は泉州有数の紡績企業「久保惣株式会社※」で、代々の社長が蒐集された多くの古美術品が地元の和泉市に寄贈されて美術館になっていますよね。

久保　和泉市久保惣記念美術館（1982年開館）です。紡績業が衰退して廃業するにあたり、それらを散逸させないために5,000坪の紡績工場跡地に美術館を建て、コレクションと合わせて和泉市に寄贈したのです。

和泉市久保惣記念美術館（大阪府和泉市内田町三丁目6番12号）

﨑元　私も一度、行ったことがあります。とても充実した内容で、素敵な時間を過ごさせていただきました。

※久保惣株式会社…初代久保惣太郎氏（1863～1928）が1886年に大阪府和泉市で創業し、同市の発展に大きく貢献。1977年の廃業を機に、三代惣太郎氏が和泉市の文化発展と地元への報恩の意を込め、代々蒐集した美術品を同市に寄贈した。

クルマ社会の未来

﨑元　御社の事業活動についてお伺いいたします。EV（電気自動車）によって未来のクルマ社会が変わるといわれていますが、これについてはどのように見ておられますか。

久保　当社は現在、「カーボンニュートラルとセキュアなモビリティを提供し、人々の生活に幸せを届けよう」をスローガンとする3か年計画を推進し、より良いクルマ社会の未来に向けてさまざまな事業活動に取り組んでいます。モビリティ（移動手段）のEV化は国によって事情が異なります。日本はエネルギー輸入国ですからEVは必要ですが、バッテリーに充電する電気を化石燃料で作らないことも重要ですし、充電場所をどう確保するかという問題もあります。また、電池代の高いEVのコストをいかに抑えるかも課題です。こうした課題に対して、トヨタはマルチパスウェイ（Multi Pathway）という発想のもと、EVに加えハイブリッド車や水素による燃料電池車など多様な手段でカーボンニュートラルを実現しようとしています。しかしながら、水素スタンドは数億円規模の建設費がかかりますし、消防法も整備する必要がある。日本におけるEV化は、まさに国のエネルギー政策にかかっているといえるでしょう。

インバウンド復調と大阪・関西万博

﨑元　コロナ禍が収束してインバウンドが戻った現在、自動車ビジネスにはどんな変化がありますか。

久保　レンタカービジネスが非常に好調です。東南アジアからのご家族連れが多く、関西国際空港やホテル周辺からレンタカーで、大阪・京都・神戸・奈良の観光地へ足を延ばされるのです。あまりの多さにクルマが足りないほどです。

﨑元　来春は大阪・関西万博が開幕し、インバウンドはさらに期待できますね。

久保　景気高揚の良い機会だと思います。関西の文化や技術などを世界にアピールする絶好のチャンスですし、大阪の文化・経済の盛り上げにつながればと思っています。

﨑元　そうですね。関西には、長く培われてきた多様な文化があります。今回の万博では、そうした文化を発信して「大阪・関西」が世界に飛躍する機会になってほしいと思います。本日は貴重なお話をありがとうございました。

久保行央社長（右）と﨑元利樹理事長（左）

（2024年7月1日／トヨタモビリティ新大阪株式会社、レクサス箕面にて）

久保行央氏

1963年大阪府堺市出身。1986年同志社大学経済学部卒業。住友銀行株式会社、トヨタ自動車工業株式会社を経て1993年トヨタモビリティ新大阪株式会社入社。2001年より現職。関西経済同友会「文化・芸術の力委員会」委員長。

トヨタモビリティ新大阪株式会社

本社：大阪市淀川区東三国三丁目10-21。資本金：3,000万円、売上高：647.93億円（2024年3月期）、従業員数：1,212名（2024年3月現在）。事業内容：新車販売・リース販売、中古車販売、自動車整備、各種保険取扱など。店舗数：新車34店舗、中古車14店舗ほか。

（写真提供：トヨタモビリティ新大阪株式会社）

大阪中之島美術館×関西・大阪21世紀協会 共同企画

Osaka Directory おおさかディレクトリ

supported by
RICHARD MILLE

小松 千倫 Kazumichi Komatsu

第７期 2024年11月16日（土）～12月15日（日）

1992年、高知県生まれ、京都府在住。音楽家、美術家、DJ。2022年、京都市立芸術大学大学院美術研究科メディア・アート専攻博士後期課程修了。音楽家としてこれまでに多くのレーベルから音源をリリースしており、その活動は国内外にわたる。音楽だけでなく、美術やインスタレーション、光や音を用いて身体の痕跡や記憶、伝承についても研究を行っており、2023年に東京で開催した個展「Sucker」では、会期中日程ごとに異なるサウンドが再生されるというユニークな体験を提供し、話題となった。

若手アーティストが育つ魅力ある大阪に

「Osaka Directory supported by RICHARD MILLE」は、関西・大阪21世紀協会と大阪中之島美術館が、関西ゆかりの若手アーティストの発掘・育成を目的に、大阪中之島美術館で開催している個展形式の展覧会。毎年３名を選出し、１名ずつ３期にわたって紹介することにより、彼らの才能を広く発信している。

今年で開催３年目を迎え、新進気鋭のアーティストの活躍を一目見ようと会場となる２階多目的スペースを訪れる人々も年々増加するほど着実に成果をあげてきた。

今年度、選ばれたのは小松千倫（こまつかずみち）さん、谷中佑輔（たになかゆうすけ）さん、KOURYOUさんの３名。11月16日（土）からトップバッターを務める小松千倫さんは、音楽家、美術家、DJという多彩な顔を持つ。今回、小松さんの創作プロセスやインスピレーションの源、そして本展にかける意気込みを聞き、音楽とアートが交差するその独自の世界観に迫ってみた。

音楽とアートとの出会い

小松さんは音楽や映像、光などさまざまな表現方法を組み合わせた作品を手掛けている。「自分にとって音楽とアートは切り離せないもの」と語る小松さんだが、音楽とアート、それぞれの鑑賞者は全く異なり、その違いに関心があると話す。「音楽は大衆向けで、美術は美術館やギャラリーなど、興味がある人や専門家に向けたものだとされる場合が多い。そのため音楽のパフォーマンスを行う場所と、美術をめぐる空間は全く違います。僕はその違いを楽しんだり、繋ごうと試みたりしていますが、重要なのは、変に両者を繋ごうとしないこと、繋いだ気にならないことだと思います」。

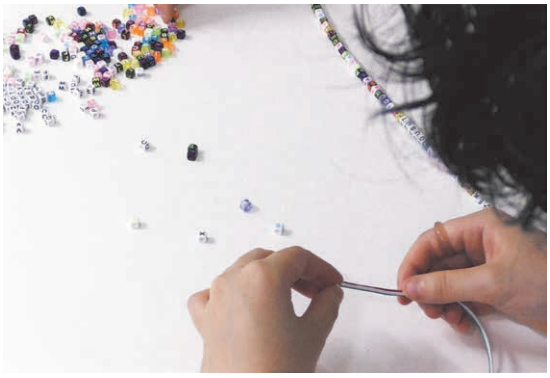
Osaka Directoryでの展示について

今回、小松さんにとって大阪での初の個展となる。大阪中之島美術館のある中之島の歴史や具体美術協会※への興味から、1970年の大阪万博のパビリオン『繊維館』をテーマにしているという。

「繊維館は、当時の先端的な表現者が集い、映像や音楽を使った大規模なインスタレーションが行われましたが、来場者はその前衛的な表現を作者の意図通りに鑑賞せず、床に座ったり寝そべったり、休憩所のように使われてしまったそうです。最近、繊維館の音楽を手がけた湯浅譲二の現代音楽を聴き、その尖った表現と一般の人々の期待との乖離に興味を持ちました。こうした先端的で専門性の高いものに対する大衆の反応や、文脈に関係なくツッコミが入る感じに関心があります」と語る。アーティストが作品に込めたメッセージが、観客によって全く別の解釈をされる。このようなギャップが面白いといい、予期しない視点やアイデアが、作品に新たな価値を与えることを小松さんは楽しんでいる。

「展示では、繊維館の状況をただ再現するのではなく、そこから広く大阪らしさを考え、自分の問題意識の中で鑑賞体験の一つの在り方として提示したい。勝手に鑑賞をはじめて勝手に終わる。自由気ままなだらだらした感じ。主導権は鑑賞者にあって、広い意味で僕が感じる大阪の街の雰囲気を醸し出すものになればと思います。社会学者の岸政彦や詩人の以倉紘平が著作の中で大阪の川について書いているのですが、それらを読んでいくなかで〝水路の最果てみたいなところ〟のようなイメージを持ちました。そういう感じを出していきたいです」と語る。古より大阪は多様な文化や人々が集まる終着点であり、さまざまなものが交錯する場所。物事を自分の判断で進める自由さ、〝商人のまち大阪〟の気風を小松さんはどう表現するのか楽しみだ。

《光年》
パフォーマンス、
2024年



作品制作中の様子

《Sucker》2023年
撮影：竹久直樹

また、ガラス張りで誰もが行きかう今回の展示場所については「美術館の外からも見られることもポイント。お客さんには展示空間を自由に使ってほしいですが、同時に、お客さんが作品の一部となり、外部から見られることもある。そのスリリングな体験も楽しんでほしい」と笑う。鑑賞者もまた作品の一部となるのだ。

「展覧会の会期中には、会場で古着のバザーや音楽ライブ、パフォーマンスなど、様々なイベントを開催する予定です。自分一人でなく、誰かと一緒に行うなどオーガナイズして、この場所を『鑑賞』に限らず、使われる空間にしたい」と話す。

小松さんにとって芸術の力について尋ねると、「芸術の個々の表現は、それぞれ独自の形やスタイルを持っていて、言葉だけでは表現しきれない感情や経験、社会の状況を記録し、伝える能力を持っています」。文字を持たない文化圏でも、創作物を通じて高度な知識や伝統が蓄積され、日々の生活の中で伝承されていく。小松さんは自身のことを「その伝統や知識の伝承者として、その役割を果たしたい」と語る。

現代アートは難解だといわれるが、私たちの心の奥深くにある感情や経験を引き出し、言葉では表現しきれないメッセージを伝える力を持っている。ぜひ、自由な心で現代アートに触れ、自身の感じるままにその魅力を存分に味わっていただきたい。

※具体美術協会（具体）…1954年に兵庫県芦屋で結成された美術家集団。本拠地が中之島にあり、画家の吉原治良を中心に、「精神の自由」を具体的に提示しようとした。18年間の活動は国内外で注目され、戦後日本美術の原点として神話化されている。大阪中之島美術館は、具体美術協会の展示「大阪中之島美術館　国立国際美術館　共同企画　すべて未知の世界へ ― GUTAI 分化と統合」を2022年10月22日から2023年１月９日まで開催した。

■「Osaka Directory supported by RICHARD MILLE」開催予告

第８期

谷中 佑輔

会期
2024年12月21日（土）～
2025年１月19日（日）

《Pulp Physique #8》2022年
撮影：大塚敬太＋稲口俊太

第９期

KOURYOU

会期
2025年1月25日（土）～
２月24日（月・休）

《KNOT》2023年　ユアサエボシ蔵

【会場】大阪中之島美術館２階 多目的スペース
【主催】大阪中之島美術館、公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
【supported by】RICHARD MILLE
【協賛】サントリーホールディングス株式会社、ロート製薬株式会社、西日本電信電話株式会社、ダイキン工業株式会社、株式会社丹青社、西尾レントオール株式会社

みなさまからのご寄付をもとにASKが支援している アーティストたちの活動の一部をご紹介します。

ASKが支援した活動のご紹介

未来アート寄金助成 ▶ コンテンポラリーダンス

日本初の「ダンスドラマトゥルク・ミーティング」を開催

中島那奈子さんは日本のダンス分野におけるドラマトゥルクの第一人者。ドラマトゥルクとはあまり聞きなれない言葉ですが、舞台芸術において演出家や脚本家とは違う視点から作品について助言をしたり、リサーチや分析を行ったりする職業で、近年大きく注目されています。その役割をめぐって日本で初となる国際的なシンポジウムとワークショップが2024年３月20日～23日の４日間にわたり京都芸術大学とロームシアター京都で開催されました。「ドラマトゥルクがいると何が生まれるか？」をテーマに、国内外の専門家が集い活発な議論が行われたほか、さまざまなワークショップも併せて行われました。当初目標の参加者数は100名でしたが、若い世代を中心にそれを大幅に上回る144名が参加。ドラマトゥルクに対する関心の高さが伺えました。

「2024年ドラマトゥルク・ミーティング」ワークショップ参加者たち
Photo：大曾根麗奈

「2024年ドラマトゥルク・ミーティング」会場風景
Photo：京都芸術大学舞台芸術研究センター提供

トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金助成 ▶ クラシック音楽

打楽器実演家集団 studio kNotの公演「刻む」が開催されました

同じ音楽大学で学んだ若手打楽器奏者によって結成された打楽器アンサンブルstudio kNot。その名称にはクラシック音楽自体への疑問「not」と結ぶ「knot」の２つの意味がこめられています。その演奏会のタイトルは「雑る」（まざる）、「惑う」（まどう）、「嵌る」（はまる）など明確なテーマを感じさせる個性的なもの。

そして今回の公演「刻む」（伊丹市アイホール2024年５月10日～12日）では、打楽器音楽の真髄に迫りました。演奏された６曲はいずれも打楽器音楽の歴史に名を残す作品。１曲目では一人であった奏者が、曲を追うごとに一人ずつ増え、最後の６曲目では６名の奏者がさまざまな打楽器を超絶的に弾きこなしていきます。会場が演劇専用ホールであっただけに打楽器演奏における身体性がより際立った公演となりました。

打楽器実演家集団 studio kNot 公演「刻む」演奏風景
場所：伊丹市アイホール

打楽器実演家集団 studio kNotのメンバー

クラウドファンディング助成 ▶ 現代美術

守屋友樹さんが「トーチカプロジェクト」を行いました

旧日本軍が第２次世界大戦末期に建てたトーチカ。アメリカ軍の上陸に備えるための防衛陣地として建造され、現在も北海道東沿岸部の原野や海岸に点在しています。写真家の守屋友樹さんは、これらトーチカの中に入り、その窓から見える景色をピンホールカメラの原理によって写真にすることを思い立ちました。こうして2023年の秋から冬にかけて行われたのが「トーチカプロジェクト」です。トーチカの開口部をピンホールとなるよう狭め、その内部に印画紙を広げてそこに見える風景を写真として写し取りました。そこで守屋さんは「待つ時間」を感じたと言います。そこに現れた茫漠とした原野の光景は、私たちに何を語りかけるのでしょうか？作品は2024年１月と４月に北海道と京都で開催された守屋さんの個展で発表されました。

撮影に使われたトーチカ　Photo：守屋友樹

トーチカから撮影された北海道の原野　Photo：守屋友樹

寺田千代乃上方落語若手噺家支援寄金助成 ▶ 伝統芸能

「第10回上方落語若手噺家グランプリ2024」が開催されました

アート引越センター現名誉会長の寺田千代乃氏が若手噺家を応援しようと立ち上げたファンドをもとに、2015年からスタートした「上方落語若手噺家グランプリ」。10年続けることを目指して毎年開催され、今年ついにその10回目を迎えました。６月19日の決勝には予選を勝ち抜いた若手噺家９名が出場。磨き上げた渾身のネタを披露し、会場を爆笑の渦に巻き込みました。グランプリに輝いたのは、インバウンドの視点から奇妙な世界観を表現した笑福亭笑利さん。準グランプリは独自のアレンジによる古典落語を披露した笑福亭呂好さんが受賞しました。笑利さんはインタビューで「ネタは場の空気を読んで出番直前に完成しました」と話し会場を驚かせました。授賞式には寺田千代乃氏も登場。「みなさん、来年も11回目を開催します!」と力強く宣言し、会場から大きな拍手が沸き起こりました。

左から上方落語協会・笑福亭仁智会長、準グランプリの笑福亭呂好さん、グランプリの笑福亭笑利さん、寺田千代乃氏　場所：天満天神繁昌亭

トヨタモビリティ新大阪ASK支援寄金助成 ▶ クラシック音楽

室内楽のマスタークラス「Reise String Laboratory」が行われました

コロナが猛威を振るっていた2020年12月、ひとりの若き音楽家・長尾賢さんによって立ち上げられた今福音楽堂（大阪市城東区）。その理念は地域に根差した音楽活動と世界を結ぶこと。2023年から、世界トップクラスの演奏家たちが集い、若手弦楽器奏者たちを対象にした室内楽のマスタークラス「Reise String Laboratory」を開催しています。今年３月に行われた２回目には講師陣として、昨年に引き続き、小栗まち絵さん、梁美沙さん、牧野葵美さん、門脇大樹さんの４名が参加。受講生はいずれも20代の弦楽器奏者６名で、１週間の間、合宿をしながらレッスンを受け、技術だけでなく音楽にとって大切なものとは何かを学びました。最終日３月10日には講師と受講生の混合編成による成果発表コンサートが今福音楽堂で行われ、その圧倒的な演奏に活動の成果が如実に現れていました。

Reise String Laboratoryに参加した講師（前列）と受講生（後列）のみなさん
場所：今福音楽堂

2024年度助成金および奨学金贈呈式＆事例発表会実施

2024年８月７日／大阪工業大学梅田キャンパス常翔ホール

国内外55団体に総額１億1,330万円を助成

関西・大阪21世紀協会は、2024年度の万博記念基金助成事業として、国内外から申請された163件の中から55件を採択し、総額１億１,330万円の助成を決定しました。また、日本文化を研究する外国人留学生（大学院修士課程）を対象とした奨学金給付事業については、全国の８大学からそれぞれ推薦された８名に奨学金の給付を決定しました。

８月７日にその贈呈式が行われ、出席した助成事業者24団体の中から、代表として３団体と奨学生８名に﨑元利樹理事長から目録が手渡されました。

贈呈式の後、2023年度助成事業者から２団体、2024年度助成事業者から１団体の事例発表が行われました。

﨑元利樹理事長（右）より助成金目録を贈呈

2024年度の申請と採択の内訳

	申 請		採 択	
国内外合計	163件	４億8,796万円	55件	１億1,330万円
国外事業者（内数）	（30件）	（8,975万円）	（６件）	（1,180万円）

※申請件数163件および採択件数55件には、それぞれ2023年度の複数年度助成事業（継続）１件を含みます。

2024年度奨学生決定

日本文化を研究する外国人留学生への奨学金給付事業

万博記念基金では、「日本文化を研究する外国人留学生を対象とした奨学金給付事業」の2024年度奨学生として、８名の奨学生を決定しました。今後、日本文化を学ぶ機会や交流の場を設け、奨学生同士や当協会とのつながりを深めて、将来「日本と外国との架け橋」となる人材を育成していきます。

WANG RUI
（オウ エイ）さん
〈中国〉
京都市立芸術大学
大学院美術研究科
保存修復専攻

文化財の保存修復および保存技術を学び、持続可能な保存方法の確立を通じて、貴重な文化財を次世代に伝え、文化財保護の意識を広めたいと思います。

GUO BAOYI
（郭 宝怡）さん
〈中国〉
東京藝術大学 大学院国際芸術創造研究科 アートプロデュース専攻（リサーチ研究分野）

昨今急速に進化を遂げる生成的人工知能に対し、東アジアの技術観を取り入れ、創造的労働者が、人間としてかけがえのない価値を再認識するための研究を展開しています。

BINDE LIYA
（ビンデ リヤ）さん
〈中国（内モンゴル）〉
大阪大学
大学院人文学研究科
外国学専攻

モンゴルのことわざと日本のことわざを比較して、それぞれに反映される文化的背景と価値観の違いや共通点を解明し、異文化理解の促進に貢献したいと思います。

LAU, Serena Hey Tung
（リュウ キトン）さん
〈香港〉
早稲田大学
大学院創造理工学研究科
建築学専攻

東京を対象に、都市の住み良さの構成要素の研究をしています。この研究によって、居心地のいい空間の構築に取り組みたいと思っています。

白 松楠
（ハク ショウナン）さん
〈中国〉
東京大学
大学院工学系研究科
建築学専攻

東アジアにおける木造建築史を専門としています。特に日本と中国を中心に、古代から中世にかけての建築技術の交流・工匠集団の影響、そして技術の受容状況を探求しています。研究に専念できる環境に心から感謝しています。

YIN YIXI
（イン イッセン）さん
〈中国〉
京都大学
大学院工学研究科
建築学専攻

文化財の劣化メカニズムの解明そして将来の保存・展示空間について、建築環境制御工学の技術を用いて、新しいアングルから知見を提供し、文化財の保全・継承に貢献していきたいと思います。

JUNG SOYOUNG
（ジョン ソヨン）さん
〈韓国〉
筑波大学 人文社会ビジネス科学学術院 人文社会科学研究群人文学学位プログラム 言語学専攻

在来語と外来語の意味機能・用法を分析し、日本語の語彙体系における意味変化を研究しています。将来は日本語だけではなく、日本の素晴らしい文化を伝播する人になりたいです。

Van de Velde Dino
（ヴァン デ ヴェルデ ディノ）さん
〈ベルギー〉
九州大学
大学院人文科学府
人文基礎専攻

日本の大正時代におけるナショナリズムの写真表現について研究しています。この成果を生かし、現代日本の基礎を深く理解し、西洋と日本の橋渡しとして働きたいです。

奨学金目録贈呈の様子

2023年度奨学生による中間報告会を開催

2024年２月17日／大阪中之島美術館１階ワークショップルーム

日本文化に関する多彩なテーマを発表

「日本万国博覧会記念基金奨学金」を活用して研究テーマを追究する外国人留学生（奨学生）たちが、これまでの学業生活で学んだこと、調査したこと、制作したことについて、大阪中之島美術館において中間報告会を開催しました。

当報告会は、奨学生が自らの研究テーマを深堀りすることを目的に関西・大阪21世紀協会が主催したもので、奨学生たちは、併せて同美術館の主催イベント『Osaka Directory』と『企画展：「決定版！女性画家たちの大阪」、「モネ 連作の情景」』を鑑賞。日本文化と外国文化の違いに触れ、親しむことで、自分の経験値や価値観の幅が広がり、柔軟な思考力を身につける良い機会となりました。

2023年度奨学生と研究テーマ・内容

張 子萌
（チョウ シモウ）さん
大阪大学大学院
人文学研究科
芸術学専攻

研究テーマ『新海誠の映画における古代日本の想像力』

脚本家・アニメーション監督の新海誠氏の個人的体験、東日本大震災の影響、映像表現という三つの面から、同氏の映画における巫女の表象をはじめとする古代日本人の想像力について論じたいと思います。

肖 藝凡
（ショウ ゲイボン）さん
大阪大学大学院
人文学研究科
人文学専攻（哲学）

研究テーマ『見者の創出と方法としての映画－見ることのパフォーマンス研究－』

映画制作という営為を一つの社会的実践であることを踏まえた上で、その相互行為の形式について理論的な考察を行い、今年度では、哲学的なアプローチから、これまで研究してきた「見ること」の理論の応用射程を広げることに取り組んでいます。柄谷行人（視差）、ベンヤミン（複製技術）、ハーバーマス（コミュニケーション）などを引き合いに出し、映画に含まれる間主体的な特性を分析し、分断化が進む現代社会を修復する役割を映画作りはどのようにあるべきかを哲学的に考察しています。

鄭 卉芹
（ジュヨン ホゥイチン）さん
京都市立芸術大学
大学院美術研究科
保存修復専攻

研究テーマ『絹本絵画における技法および素材の研究－東京国立博物館所蔵「普賢菩薩像」の想定復元模写－』

現代の台湾では環境や動物性たんぱく質の影響により、制作と保存が難しく、絹で絵画制作をする機会は少なくなっているため、絹絵画の技法と素材を研究するとともに、絹本絵画における伝統的な絹、絵具、技法、表現について考察し、想定復元模写を通して当初に描かれた様子を再現し、美意識を明らかにしています。

HA RHIN
（ハ リン）さん
大阪大学大学院
人文学研究科
芸術学専攻（美学）

研究テーマ『日本の食文化を研究するための方法模索～現象学～』

日本の食文化を支えているのは、（日本）食の体験の蓄積の結果であり、食体験（身体性を含めて）を哲学的に扱う研究は稀です。そこで、食の体験は単純な伝統的文化的価値を超えて、日常を支える価値のある対象でもあり、存在論の問題まで広げられる可能性がある（感覚/知覚）ものとして考察しています。

呉 雯雯
（ゴ ブンブン）さん
京都市立芸術大学
大学院美術研究科
工芸専攻（漆工）

研究テーマ『現代技術と伝統文化を融合して漆の新たな可能性を広げる研究』

中国と日本の伝統文化や要素などをテーマにし、グラフィックデザインやレーザーカッターなどの現代要素を取り入れた漆作品を制作しています。例えば漢字、葦手、和歌など、これらの伝統文化の美しさを漆の作品を通じてより多くの人に伝えたいと共に漆の新たな可能性を広げたいと思います。

MANETTI ANNA
（マネッティ アンナ）さん
早稲田大学大学院
文学研究科人文科学専攻
（国際日本学）

研究テーマ『明治時代の翻案小説－南陽外史が翻訳したシャーロックホームズ－』

本研究の目標は、日本語が話せない研究者・学生に、日本文化・日本の翻訳史の魅力と重要性を伝え、英語で論文を書き、英語圏の論文誌で掲載し、英語圏の文学科にはヨーロッパ文学だけではなく、日本を含むアジア文学に関する論考と考察ができるようになりたいと思います。

中間報告会の様子（大阪中之島美術館１階ワークショップルームにて）

2023年度奨学生の皆さん

日本万国博覧会記念基金事業

世界各国で助成が生かされています。

過去53年間に日本万国博覧会記念基金の助成を活用して建設された海外の施設についてご紹介します。

＜第７回＞

イギリス王立キュー植物園（イギリス）

イギリス王立キュー植物園（Royal Botanic Gardens, Kew）は、ロンドン南西部の120haの敷地に４万種以上の植物が育ち、700万点以上の植物標本を持つ、世界最大級の植物園です。1840年に植物園として開放され、世界各国の植物や独自のガーデンスタイルを見ることができ、2003年には世界遺産に登録され、年間100万人以上が訪れる人気の植物園です。

万博記念基金では、1994年、1996年、2016年に施設整備や展示会に対し助成しています。

王立キュー植物園マーケティング部門シニアプレスオフィサーのサラ・ファレル（Sarah Farrell）さんに、同植物園のJapanese Landscapeについて、ご紹介いただきました。

助成年度	助成事業名	助成事業者	金　額
1994年度	王立キュー植物園内勅使門の修復	王立キュー植物園	2,000万円
1996年度	王立キュー植物園日本庭園整備事業	王立キュー植物園	2,000万円
2016年度	シャーリー・シャーウッド植物画ギャラリーでのフローラ・ジャポニカ展示会	王立植物園キューガーデン財団および友の会	260万円

Royal Botanic Gardens Kew

1996年に一般公開されたJapanese Landscapeは、キュー植物園の中で最も親しまれ、有名なエリアの１つです。ライオンゲートから歩いてすぐの場所にあるこの静かで刺激的なスペースは、賑やかなロンドンの中で癒しを提供しています。

Japanese Landscapeは、３つの独立した庭園で構成されています。日本の伝統的な茶園を再現した「平和の庭」は、小さな石灯籠がある曲がりくねった小道と、静かに佇（ただず）む水辺で構成されています。風景の終わりに、「活動の庭」が滝や山々の険しい形態を連想させる緩やかな斜面があり、繊細に敷き詰められた砂利や慎重に配置された岩が自然界の豊かな美しさを表現しています。「調和の庭」は、日本の山岳地帯を石や岩石で表現し、２つのエリアを結びつけています。

石灯籠（平和の庭）

Japanese Landscapeの中心には、勅使門（ちょくしもん）があります。これは、1910年にロンドンで開催された日英博覧会に出展した後、キュー植物園に移築されました。勅使門は京都の西本願寺にある唐門の小規模なレプリカであり、日本の伝統的な技術と現代の技術革新を組み合わせて1995年に復元されました。日本のヒノキから作られた勅使門は、16世紀後半の桃山時代のスタイルで作成され、精巧に彫られた木工品には、高度に様式化された動植物や、日本の伝説に登場する人物が描かれています。

勅使門

キュー植物園の園芸員は、来場者が楽しめるようにJapanese Landscapeを丹念に維持しています。毎週、日本で教えられた技術を取り入れた伝統的な木製の熊手を使い、庭の砂利をかき集めて、水の動きを象徴する円形、波形、直線のパターンを描きます。毎年９月または10月には、日本の伝統である月見を祝うために、砂利が細かく市松模様に掻き集められます。

Japanese Landscapeには、さまざまな日本の植物種が豊富に植えられており、季節を通して印象的な色彩の風景を作り出します。春のピンクや白の可憐な桜、秋のドウダンツツジやカエデの真赤な色調まで一年を通して変貌し、世界中から訪れる人々の人気を博しています。

写真提供：Royal Botanic Gardens, Kew

日本万国博覧会記念基金

助成先の事業紹介

2024年度助成事業の中から、事業者より寄せられた内容をご紹介します。

「瀬戸内オデッセイ」プロジェクト（複数年度助成事業）

事 業 者：一般社団法人瀬戸内サーカスファクトリー　**助成金額：**300万円（2024年度分）
実施期間：2024年６月１日～2026年３月15日　**実施場所：**香川県丸亀市ほか香川県内複数箇所、神奈川県横浜市、愛媛県ほか

日本における現代サーカスのパイオニアとして、現代サーカスを媒体に、新しい社会の未来を描く事業を展開します。芸術分野においては、フランスを代表する現代サーカスカンパニーを招聘して横浜で公共劇場と共催で実験的ラボラトリーを行い、2025年度の創作・公演につなげ、社会福祉分野においては、欧米の先達を招き、自治体と連携しながら、日本の社会的課題を解決するソーシャルサーカスに取り組みます。また、欧州やアジアの国々と連携し、現代サーカスネットワーキングのハブとしての取り組みを行います。

芸術のみならず、地域のすぐれた職人を擁する産業、教育、福祉などとのコラボレーションを重ね、地域と世界が直接つながる、新しく独創的な文化を生み出します。

福島の青少年と外国人音楽家との国際音楽交流事業（単年度助成事業）

事 業 者：NPO法人 福島青年管弦楽団　**助成金額：**210万円
実施期間：2024年４月２日～10日　**実施場所：**福島県福島市、台湾台北市

音楽による青少年の人間的成長を目的に、福島県内の若者とメキシコ人留学生でオーケストラを結成し、外国人のプロ音楽家らの情熱的な指導のもと、福島市と台北市においてコンサートを開催しました。台北公演では「台北フィルハーモニー管弦楽団ユースオーケストラ」と共演し、滞在中に予期せぬ「花蓮地震」に見舞われたものの、被災された方々のためにもコンサートを成功させようと、福島とメキシコと台湾の若者たちが言葉の壁を越えてお互いに助け合いながら、総勢100名で壮大な演奏を披露しました。この国際的な音楽交流を通して、互いの文化に理解を深めながら共に大きな達成感を体験し、それによって若者たちの心の成長につなげることができました。

公演風景

Beyond Noh Sumidagawa 2024（単年度助成事業）

事 業 者：Azuki Foundation　**助成金額：**180万円
実施期間：2024年６月16日～23日　**実施場所：**オールドバラ音楽祭会場、ロンドン キングスプレイス、バーミンガム市交響音楽センター

本事業は、英国の格式高いフェスティバル会場でトップレベルの能楽師が演技を披露し、日本の古典である能が持つ、時間を超越した本質、人情力を『隅田川』に焦点をあてて、生き生きと描くことを狙いとしています。また、英国のアーティストたちが能にヒントを得て新たな作品を創作し、公演します。

オールドバラ・フェスティバルでは、イギリスの語り部による新作を上演し、字幕に頼らず能を鑑賞してもらうとともに、隅田川をテーマにした彫刻家の作品を展示し、能と現代美術のつながりを探ります。

ロンドンのキングスプレイスで開催される「第４回能楽祭」では、２つの能の名曲『隅田川』と『砧（きぬた）』に加え、若手作曲家による新作の公演や一般向けのワークショップやトークも行います。

国指定重要無形民俗文化財 住吉大社 御田植神事（2024年6月14日／住吉大社）

◆協賛：公益財団法人 関西・大阪21世紀協会

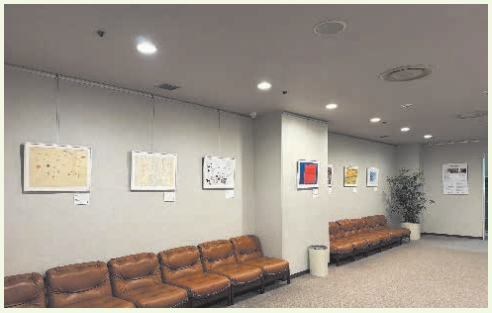
住吉大社の御田植神事は、神功皇后摂政11（211）年、神功皇后が住吉大社に鎮座された際、住吉大神にお供えする神田を定め、長門国（現在の山口県）から植女を呼び寄せて御田植の奉仕をさせたことが始まりといわれています。神事は明治時代に廃絶の危機に瀕しますが、大阪新町廓が御田を買い上げて住吉大社へ寄進したことで窮地を救われ、今日まで大切に受け継がれています。昭和54（1979）年には、国の重要無形民俗文化財に指定されました。

今年は多くの外国人観光客も訪れ、日本の三大田植祭の筆頭とされる伝統的な装束や神聖な儀式に魅了されていました。

関西・大阪21世紀協会は、大阪の誇るべき伝統文化・神事芸能としてこれを支援しています。

田舞（たまい）（八乙女舞〈やおとめまい〉）を舞う巫女と御田植奉仕をする人たち

楽しむ 学ぶ 語り合う インフォメーション



art bridge®

もっと身近にインクルーシブアート

詳しくはWEBサイトで▶

ザ・シンフォニーホールに『art bridge』の作品が登場

今年５月から、ザ・シンフォニーホール（大阪市北区）の１階席後方ロビーと２階席東側サイドロビーで、『art bridge』のインクルーシブアート作品11点を展示しています。

『art bridge』は、関西・大阪21世紀協会が進めるプロジェクトで、障がいのある方を中心とする多様な背景を持つアーティストの力のあるアート作品を貸し出し、その多様な感性に触れて理解を深めてもらうことを目的としています。本展示は、ザ・シンフォニーホール様にご賛同いただき実現しました。

ザ・シンフォニーホールにお越しの際には、多様な背景を持つアーティストの魅力あふれる作品も併せてお楽しみください。

日本万国博覧会記念公園シンポジウム2024「協働・共創の万博をめざして」

過去３回のシンポジウムの成果が、2025年大阪・関西万博にどう生かされつつあるのか、開催まで半年をきった状況で具体的な報告をいただきます。パネルディスカッションでは、同万博の開催テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」を中心に、万博とその先の未来について討論します。

日　　時：2024年10月26日（土）13時30分～16時30分（開場13時）
会　　場：国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール（講堂）
会場参加：定員350名（要事前申込・先着順／2024年10月18日まで受付）
※千里文化財団のホームページでオンライン配信あり（申込不要）。
参 加 費：無料
受付・詳細：https://www.senri-f.or.jp/expo_symposium2024/
お問合せ：公益財団法人千里文化財団
TEL：06-6877-8893（土日祝を除く９時～17時）

主催：公益財団法人千里文化財団
共催：大阪府、国立民族学博物館
協力：公益財団法人関西・大阪21世紀協会 他

登壇者　**中島 さち子**（株式会社steAm代表取締役、2025年大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー）、**堂目 卓生**（大阪大学総長補佐、社会ソリューションイニシアティブ長）、**佐野 真由子**（京都大学大学院教授）、**吉田 憲司**（国立民族学博物館長）

関西・大阪21世紀協会賛助会員 入会のお願い

関西・大阪の活性化のため、皆様のご支援をお願いします。

会　費（何口からでも結構です）
■法人会員１口につき年会費10万円
■個人会員１口につき年会費　1万円

特　典
1. 協会が発行する刊行物の配布
2. 協会が主催する各種セミナーなどへの案内
3. 賛助会員の参考となる情報・資料の提供など

お問合せ　（公財）関西・大阪21世紀協会　総務部（TEL.06-7507-2001）

公益財団法人
関西・大阪21世紀協会
ホームページ https://www.osaka21.or.jp

発　行　日／令和6（2024）年 9月30日
編集・発行／公益財団法人 関西・大阪21世紀協会
〒530-6691 大阪市北区中之島6丁目2番27号 中之島センタービル29階 TEL.（06）7507-2001 FAX.（06）7507-5945
発　行　人／﨑元利樹　編集協力／株式会社インサイト　印刷／東洋紙業株式会社